

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

廣瀬 雅宣

主論文の題目
および
掲載誌・審査委員

題目： 分枝型膵管内乳頭粘液性腫瘍の自然経過に関する検討

掲載誌 日本病院総合診療医学会雑誌 2016； 11： 21-27

主査 伊東 文生
副査 松本 伸行
副査 小林 慎二郎

[論文の要旨・価値]

分枝型 IPMN (intraductal papillary mucinous neoplasm ;膵管内乳頭粘液性腫瘍) は近年増加傾向にあり、数%の割合で悪性化するが、自然経過については不明なことが多い。平成 25 年 1 月から 24 か月間に CT、MRCP で診断された IPMN418 例のうち、1 年以上フォローされていた 325 例について検討した。嚢胞の最大径を後方視的に観察し、観察開始時と終了時の径の変化が、嚢胞径が 2mm 以上増大しているものを増大群、2mm 未満のものを非増大群として 2 群に分け比較した。調査項目は観察開始時の嚢胞径、分布、嚢胞内部の結節（壁在結節）、主膵管径および患者背景について検討している。本研究は、聖マリアンナ医科大学倫理委員会の承認（第 3307 号）を得ている。観察開始時の嚢胞径の最大値は 5mm から 102mm で中央値は 15mm であった。経過観察期間は 1 年から 12 年間で、中央値は 4 年であった。増大群は 147 例、非増大群は 178 例であった。増大群、非増大群の 2 群間で観察開始時の嚢胞径に有意差はなかった。嚢胞径と経時変化には有意な関係があり ($p < 0.01$)、増大群において観察開始時の嚢胞径を 15mm 以上と 15mm 未満の 2 群に分けて単位年あたりの嚢胞径の変化を比較すると、15mm 以上の群の変化が大きかった ($p < 0.01$)。非増大群と比較して増大群では年齢が高く ($p < 0.01$)、総コレステロール ($p < 0.05$)、LDL コレステロール ($p < 0.01$) が低かった。1 年以上の経過観察を行った分枝型 IPMN の中で悪性化がみられたのは 4 例で増大群 3 例、非増大群 1 例であった。通常型膵癌を併発したのは 2 例で増大群 1 例、非増大群 1 例であった。いずれの症例も嚢胞径は 30mm 以上であった。本研究は高齢者 IPMN、特に嚢胞径 15mm 以上の症例は悪性化にそなえ十分なフォローアップが必要なことを示す臨床的価値の高い論文であり、学位論文としての価値を有すると考えた。

[審査概要]

審査は 2 月 7 日 (火) 19:00 より、主査、副査の他 松田指導教授他 2 名の陪席で行われた。15 分間のパワーポイントを用いた発表の後、質疑応答を行った。①なぜ嚢胞径が縮小するものがあるのか ② IPMN の疑診例は存在するかどうか ③嚢胞が消えているものがあるのは何故か ④増大群を 2mm 以上に設定したのは何故か ⑤コレステロール値はなぜ注目されているのか などが問われたが、申請者は一部答弁に窮することもあったが概ね的確に返答した。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]

申請者は本研究に関わる幅広い知識を有し、専門的知識は十分なものと考えられた。発表はスライドも分かりやすく、よく構成されていた。質疑応答でも周辺領域にも詳細に回答し、十分な発表能力と思われた。真摯な態度に終始し、誠実で礼儀正しく、学位授与に値すると判断した。英語能力は参考論文の一部和訳を行い良好な結果であった。